

(学校番号033) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和大里小学校】

4月28日			
目標・策			
知識・技能	国語科、算数科において当該学年で習得すべき基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。(学年末調査の平均正答率を85%以上にする。)	⇒	タブレット学習や漢字ドリル・計算ドリルを活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。児童の学習状況を確認し、児童自身が主体的・計画的に学習できるように支援する。
思考・判断・表現	主に算数科において思考力・判断力・表現力を高める。(学年末調査の平均正答率を85%以上にする。)	⇒	協同的な学びの時間を確実に確保し、児童の思考力・判断力・表現力の向上を図る。ICT機器の活用も含め、人に伝えることを意識したスキルを学校全体で指導する。
主体的に学習に取り組む態度	自校アンケート調査における主体的に学習する態度の質問項目において、6月調査よりも1月調査の肯定的回答の割合を向上させる。	⇒	児童にとって必要感のある課題を設定し、解決することを楽しいと思うことができる授業を行う。学校課題研修を軸に、教員同士がお互いの授業を見合う機会を増やし、意見や考えを交流させ指導力を高める。

9月1日			
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
知識・技能	変更なし	⇒	
思考・判断・表現	変更なし	⇒	
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	

8月31日	
全国学力・学習状況調査結果	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語+6.7pt、算数-6.1ptであった。全国平均は共に上回っているが、算数の割合についての理解に課題があることが分かった。</p> <p>R4年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語+4pt、算数-6.8ptであった。全国平均は共に上回っているが、目的に合った数の処理の仕方を考察したり、図形の意味や性質を基にして構成の仕方を考察したりして記述することに課題がある。</p> <p>R4年度全国学力・学習状況調査の「課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか」において、全国平均を上回る94.3%であった。R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、肯定的評価が+9.4ptであり、取組の成果が出ているといえる。</p>	

2月27日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語、算数ともに結果は良好であった。国語に関しては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について課題がみられる。主語と述語の関係については復習が必要である。また無答率が高いことも課題である。算数は、立方体の構成については復習が必要である。図形については4年生以降の学習の基礎となる学習なので、丁寧に指導していきたい。	小4	国語に関しては、特に「書くこと」と「読むこと」については課題がみられた。普段の学習から、目的に応じて文章を書いたり、中心となる語や文を意識しながら読んだりする学習活動を取り入れていく必要がある。算数に関しては、「図形」について課題がみられる。図形の定義や性質についての理解や、作図の方法については復習が必要である。
小5	算数と理科の結果は良好であった。国語に関しては、「読むこと」に関して課題がみられた。俳句の情景を捉える問題の正答率が低かった。社会に関しては、資料を活用し発展的に考える問題の正答率が低かった。より深く考えていく学習活動を取り入れていく必要がある。5年生は全教科において無答率が低い。あきらめずに問題に取り組み、考えて回答しようとしていた。	小6	国語と算数の結果は良好であった。社会に関しては、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の領域において課題がみられた。立法・行政・司法の果たす役割の理解について復習が必要である。理科に関しては、土地の浸食や地層のでき方についての理解や2つの物事を関連付けて考えることに課題がみられた。各教科への興味関心について回答結果が正答率と大きく関係することとなった。

3月8日	
成果指標に対する達成状況	評価(※)
知識・技能	A
思考・判断・表現	A
主体的に学習に取り組む態度	B

3月8日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	タブレット学習や漢字ドリル・計算ドリルを活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を継続して図っていく。児童の学習状況を確認し、児童自身が主体的・計画的に学習できるように支援する。年度初めに全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果の分析を全教職員と共通理解し、各学年の児童の課題を明確にして指導をしていく。また日々の授業を大切に、教材研究を充実させることで「分かる授業・楽しい授業」を実践していく。
思考・判断・表現	協同的な学びの時間を確実に確保し、児童の思考力・判断力・表現力の向上を継続して図っていく。学校課題研究である算数科の学習を中心に、他教科においても児童の思考力・判断力・表現力を高める授業実践、教材研究を引き続き行う。また実践したICT機器の活用等の手立ても学校全体で共有しながら、自分の考えを人に分かりやすく伝えることを意識した学習活動を実践していく。
主体的に学習に取り組む態度	児童が主体的に学びたいと思える授業づくりを継続していく。課題設定からまとめ・振り返りまで、児童の思考の流れを互いに授業を見合う機会を定期的を設定し、授業について意見を交換することで各教員の指導力の向上を図る。

※評価  
 A 8割以上(達成)      C 4割以上(あと一歩)  
 B 6割以上(概ね達成)      D 4割未満(不十分)